

「しごと」によって、こんなに違う?!

# 私の「しごと」スタイル

### 目に優しいメガネ

目に優しいブルーライトカットのメガネです。仕事柄ほぼ一日中PC画面を見るため、目にかかる負担を最小限に抑えることを期待しています。



最大限にパフォーマンスを発揮できるように創意工夫!

### プライベートにも必須の手帳

仕事とプライベートは色分けして分かるように使っています。プライベートも充実できる当社ですから毎日予定がいっぱいです!

### アイデアが詰まったノート

方眼紙スタイルのノート。ウェブデザインのレイアウトや図表なども書きやすい方眼紙に色々なアイデアを書き留めています。

株式会社キャンドウコンセプト  
企画開発部  
村上 茜さん(入社1年目)

当社は大手企業などの情報システムを構築する、いわゆるシステムインテグレーターです。私は自社のホームページの担当で、お客様の業務システム構築にも少しずつ携わるようになりました。入社1年目ですから覚えることばかりですが、自社ホームページを一人でリニューアルしたときの充実感はいまだに忘れられません。最新のウェブデザインの技術を駆使して制作したホームページを見た先輩社員から「見やすくなった」とか「カッコいいね」という言葉を頂いたのが嬉しかったですね。普段はカジュアルな服装で靴もスニーカーなどの動きやすい格好を心掛けていますが、今日はアポイントがあったのでお気に入りのスーツスタイルです。さらに気分やモチベーションを高めるためにメガネやノートといった小物にも私なりのこだわりがあります。

調理白衣とそば打ち道具が欠かせません!

そばには、そば専用の包丁

ずっしりと重量感があります。均等にスピーディーにそばを切ります。

歴史が詰まっています!

長年、店で活躍しているこね鉢。年季が感じられるでしょ!

そばを均等に伸ばす!

体の一部のように自在に操ってそばを均等に伸ばすのが、美しく仕上げるコツ。

株式会社更科堀井  
麻布十番本店  
持田 拓也さん(入社3年目)

そば打ち職人にあこがれて入社3年。やっと何とか自分のそばが認められて、お客様にふるまえるようになりました。そば打ちは気温や湿度に左右されやすく、いつも同じようにやっていたのでは微妙に出来上がりが変わってしまいます。特にさらしなそばは繊細なので、毎日の気温や湿度によって微妙に水の量を調整しています。そば打ちに欠かせないのが、こね鉢、のし棒、そば包丁。写真のこね鉢は直径60cmはあります。これで20人前、そば粉1.8kgを1回で打ちます。もっとも気を使うのが「のし」の工程です。ここでいかに均等に薄く伸ばせるかで、仕上がりに差が出ます。そば包丁は、それ自体の重さを利用してリズムカルに切っていきます。先輩職人は皆さん、マイ包丁をそろえているので、近いうちに僕も手に入れたいですね!

一言に「しごと」といっても業界や職種によって、仕事着や仕事道具は様々です。そこで、先輩社会人に、仕事で欠かせない仕事着と道具について伺いました。ここでは、仕事内容が全く異なる4人の先輩社会人に登場いただきました。

いつも必携のメガネレンチ  
微妙な力加減で、タイヤのボルトやナットを緩ませる工具です。

工具一つひとつに微妙なクセがあり、使い込むほどに手になじむ!

大型サイズのドライバー

強い力を加えてもネジ山を潰さないマイナスドライバーを愛用しています。

部品を挟むプライヤー

エンジン内のホースなどをつまみ、余分な爪などをカットします。

彌生ディーゼル工業株式会社  
自動車整備士  
高橋 翼さん(入社3年目)

自動車整備の仕事では、技術力と整備工具の精度のコンビネーションが非常に大事になります。私が専門とするトラックやトレーラーといった大型車でも、一つひとつの部品は緻密ですから、整備の際には各部品にフィットした工具で丁寧に緩めたり、締めたりする必要があります。いうまでもなく、ここで使用する道具はどれも繊細そのもので、例えば、メガレンチは力を加えると微妙にしなりますし、ワイヤーやネジなどを挟むプライヤーや、ネジを回すドライバーも微妙な力の入れ具合に絶妙に反応するものを使用します。整備の腕の見せどころは、その一つひとつをいかに使いこなすかです。このメガレンチもプライヤーもドライバーも先輩から譲り受けたものです。徐々に自分の手になじんでいる感覚があり、これからも大事に使い続けていきたいです。

インカムでケアもスムーズに!

入居者の入浴時などお世話をする際は必ず装着しています。これでほかのスタッフへの連絡事項や、ケアを手伝ってほしいといった連絡をしています。

これがケアスタッフに欠かせない「三種の神器」です!

タブレットで毎日の活動を入力  
日々の入居者の活動記録や介護記録を入力してケアステーションのパソコンに送信。ケアスタッフ全員で情報を共有して支援を行っています。

これで入居者の健康を確認

入居者の健康状態を確認するために体温計、血圧計、聴診器のバイタルセットは必需品です。

社会福祉法人合掌苑  
鶴の苑  
小田桐 未来さん(入社3年目)

有料老人ホーム「鶴の苑」でケアスタッフとして働いています。鶴の苑は、元気な高齢者が暮らす住宅型有料老人ホームと、認知症になった方が生活される介護付き有料老人ホームを併設しています。そんな入居者の健康状態に合わせて身体的な介護をするのが私の役割です。当然、入居者一人ひとりの健康状態は異なりますので、状況に応じたケアを心掛けています。また、スタッフ同士の連携も不可欠です。そんな仕事をしている私に不可欠なツールが、入居者の日々の健康履歴を記すためのタブレット、ケアスタッフ同士の連絡に不可欠なインカム、入居者の健康状態をチェックするための体温計、血圧計、聴診器などが入ったバイタルセットです。こうしたツールがあるおかげで入居者に対して適切で迅速なお世話ができています。

女性が活躍できる

環境創出ストーリー

# 多様な人材を受け入れ 働きやすい環境を創造し 介護業界をリードする



ケアスタッフは入居者が幸せを感じられるホスピタリティーあふれる支援を実践している

## 多摩地区 社会福祉法人 合掌苑

- 設立年: 1960年
- 理事長: 森 一成
- 従業員数: 182名(内、女性従業員数103名)
- 〒194-0015
- 東京都町田市金森東3-18-16
- TEL: 042-799-2144
- <http://www.gsen.or.jp>

職員の約8割が女性という合掌苑では、社員それぞれが状況に応じて働ける仕組みや制度を数多く導入している。そんな恵まれた環境の中でいきいきと働く職員たちの姿を追った。

### それぞれの立場に合った 使いやすい制度を導入

町田市で、養護老人ホーム「合掌苑 金森」、有料老人ホーム「輝の杜」「鶴の苑」を運営する社会福祉法人合掌苑。その源流を訪ねると、1945年の東京大空襲で焼け出された身寄りのない人を引き受けたお寺にたどり着く。

「そんな歴史から、合掌苑は『人は尊厳を持ち、権利として生きる』という理念を大

切にしてきました」

合掌苑の森一成理事長は同法人の成り立ちと理念を語り、こう続ける。

「入居者様が幸せになるには、お世話する職員が幸せでなければなりません。そこで職員満足度(ES)を上げることこそ顧客満足度(CS)の向上に繋がると位置付け、数々の取組を行って来ました」

同法人の制度は、それぞれ職員の状況に合わせて使いやすいように工夫されている。特に約8割を占める女性職員も働

きやすい職場を作り、ESの向上を目指した仕組みを導入してきた。

最も象徴的なのは出産・子育て支援だ。労働基準法では産前休業は出産予定日の6週間前からということになっているが、同法人では8週間前から取得できる。その差分の2週間は妊娠初期のつわり時に充てることも可能だ。

時間単位で取得できる看護休暇制度もその一つで、子どもを病院に連れていく時間を看護休暇に充てられるのだ。さらに



- ① 2児の母である米塚真悠子さんは職場の同僚たちに感謝しながら働く
- ② 働きやすい環境だから自然に職員の表情も明るくなる
- ③ 合掌苑の理念に共感、職場の雰囲気に好感を持って入社し、いきいきと働く安藤節子さん
- ④ 有料老人ホーム「鶴の苑」のエントランス。ケアスタッフは清潔な施設で入居者のお世話をしている

企業が船ならどこに向かおうとしている船なのかを見極めてください



森一成理事長

同法人独自の採用方針として「25大雇用」を掲げ、ひとり親家庭や外国人など多様な人材の受け入れ態勢を整えている。例えばひとり親家庭は、経済的弱者に陥りがちなため資格がなくても積極的に採用。経済的な自立を支援している。多様性を受け入れることで、各自のモチベーションが高まっている。

### 感謝の気持ちにあふれた職場

「鶴の苑」でケアスタッフとして働く米塚真悠子さんは、入社後2人の子どもを出産。産休・育休制度を活用して復職したというキャリアの持ち主だ。

「看護休暇制度や職場の理解があったのは、子育てと仕事を両立する上で有り難かったです」

そう感謝の言葉を口にする米塚さんは現在、子どもとの時間を長く取るため限

定制正職員という立場で働いている。平日9時～16時半の勤務で、退社後には家族の夕食の準備にもたっぷり時間が取れるなど、規則正しい毎日が送れると笑顔を向ける。

2014年に入社した安藤節子さんは、「職場見学の際、行動指針の『人間大好き』『笑顔を忘れない』を、職員の方々が実際に働く場で実践されていると強く感じたのがきっかけ」と入社理由を語る。

安藤さんは現在、入居者の入浴、排泄などの身体介護に当たる。安藤さんがお世話をするのは比較的自立度の高い人たちのため、入居者の生活のリズムを守りながらお世話をすることを心掛けているという。

そんな安藤さんが何よりもうれしいのは、入居者からのありがとうの一言。そうした感謝の言葉を掛けられる回数も増えてきたと表情を輝かせる。

#### 編集部

#### 「ハツタロー・ケンジロー」メモ

#### 全国の福祉施設に 経営ノウハウを伝授

現在、介護職は恒常的に人手不足である。そんな時代背景を考慮して、同法人では未経験者を採用して育ててきた。その経営手腕が評価され、見学者は後を絶たないという。

また、森理事長は福祉施設の運営のヒントになればと全国に講演に出掛け、職員が働きやすい環境作りに挑む同法人の考え方と取組を紹介していると話す。「当施設のノウハウを伝えることで、各地域の福祉法人のお役に立てれば嬉しい」と熱く語る姿は、超高齢社会の中にあつて実に頼もしく映った。



さらに詳しい会社情報は ▶ 東京カイヤハッケン伝! サイトへ ▶▶